

生活科学学習指導案

海田町立海田東小学校 和田 愛

1 対象 第1学年

2 単元名 「ふゆとなかよし」～きたかぜこぞうとあそぼう！～

3 単元について

○ 単元観

本単元は、小学校学習指導要領生活の内容(5)「季節の変化と生活」(6)「自然や物を使った遊び」を受けて設定した。児童が、身近な冬の自然と豊かにかかわる中で、自然と遊ぶ面白さや自然の不思議さ、冬の訪れに気付くことを通して、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできるようにすることをねらっている。『小学校学習指導要領解説生活編』(平成20年)に示された具体的な視点としては、「ク時間と季節」「ケ遊びの工夫」を取り入れている。

「冬みつけ」の活動を通して児童が見付けた冬の訪れについての気付きの中から風を取り上げ、北風と遊ぶ活動を通して、その面白さや遊びを工夫する楽しさ、風の不思議さに気付かせ、みんなで遊びを楽しむことができるようにしたい。

○ 児童観

本学級の児童は、春や夏には校庭で生き物を探したり、秋には収穫したさつまいものつるで遊んだりさつまいもを料理したりすることで季節の変化を楽しんできた。日常の遊びについては、友達と遊ぶことや固定施設での遊びを好んで行っている。しかし、自分で遊びを考え出したり、身近な自然と遊んだり、身近にあるものを使って遊びに使う物を作ったりする経験は乏しく、道具を使うことが苦手な児童も多い。また、楽しかったことや対象とのかかわりで得た気付きを表現することはできているが、それを交流し気付きを関連付け、新たな気付きを生み出したり、次の活動や体験につなげたりすることは、まだ不十分である。

○ 指導観

指導に当たっては、児童が対象とのかかわりを深め、そこで生まれた気付きを質的に高めて、活動や体験を一層充実させ、日常にもつなげていくことができるよう、次の5点の工夫を行う。

- ① 対象とのかかわりが深まり、児童の思いや願いが連続するよう、児童の発想を促すような学習材や活動場所の選定などを行う。
- ② 本単元における気付きの想定を行い、気付きの質の高まりについて見通しをもつ。そして北風と遊ぶ活動を繰り返し設け、どの児童にも対象に対する気付きが生まれるようにする。
- ③ 実際の授業場面では、想定表を基に児童の気付きを分類、整理し、どの気付きを基に考えさせるかを吟味する。そして、本時の展開の中に、考えさせる視点をもった話合いの場を位置付け、発問の工夫を行う。
- ④ 単元の終末には、児童が単元を通して頑張ったこと、発見したこと、楽しかったことなどを振り返る場を設定する。この振り返りが、児童にとって相手意識をもった楽しい振り返りとなるよう、「おうちの人への手紙」という形で表現させる。記述前には、これまで蓄積したカードを手掛かりに活動を思い出させたり、友達と思い出を交流させたりする時間を設ける。
- ⑤ 単元終了後も日常の生活に本単元の学習が生かせるよう、「おうちの方」に返信をお願いしたり、遊びが継続していくよう言葉かけを行ったりする。

4 単元目標

風と遊んだり、風との遊びに使う物を工夫して作ったりすることを通して、冬の訪れや風の不思議さ、風や友だちと遊ぶ面白さに気付き、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。

5 単元の評価規準

ア 生活への関心・意欲・態度	イ 活動や体験についての思考・表現	ウ 身近な環境や自分についての気付き
①身の周りや校庭の自然に見られる季節の変化に関心をもち、進んでそれらとかかわろうとしている。 ②思いや願いをもって、風との遊びを考えたり、遊びに使う物を作ったり、友だちとかかわったりしながら遊ぼうとしている。	①風との遊びや遊びに使う物を工夫して作ったり、遊びのルールなどを考えたりしながら、楽しい遊びを創り出している。 ②身近な自然とかかわったり、遊びを工夫したり、友だちとかかわって遊んだりしたことなどを振り返り表現している。	①季節によって自分たちの遊びや生活の様子が変わること気付いている。 ②遊びを工夫したり、遊びを創り出したりする面白さ、風の不思議さに気付いている。 ③風と遊ぶことを通して自分のよさや友達のよさなどに気付いている。

6 「ふゆとなかよし」～きたかぜこぞうとあそぼう！～における気付きの想定表

対象への気付き			自分自身への気付き
自覚された気付き		第3学年以上の学習内容への つながり	
一つ一つの気付き	関連付けられた気付き		
・息が白い。 ・寒い。 ・風が強い。 ・風が冷たい。	【冬の訪れ】 ・冬は、風が吹いて寒い。 ・寒くなって風が冷たくなる。 ・北風小僧のいたずらだね。	【季節の変化】 ・季節によって動植物の様子に違いがある。 ・季節によって気温や吹く風に違いがある。 ・場所によって吹く風の強さが違う。 【風の働き】 ・風の力は物を動かすことができる。 ・風の強さによって物の動く様子に違いがある。 【遊びの工夫】 ・身近な物の特徴や性質を生かすと遊びが創り出せる。 【人との接し方】 ・ルールやマナーを守るとお互いに気持ちよく生活できる。	・〇〇を頑張ったから、〇〇ができるようになった。 ・家で〇〇してみるよ。 ・みんなで遊べて楽しかった。 ・みんなが〇〇できてよかった。
・〇〇が飛んだ。 ・〇〇が揺れた。 ・〇〇が動いた。 ・〇〇で遊んだ。 ・〇〇して遊んだ。 ・〇〇を困っているよ。 ・〇〇が楽しかったよ。	【風の不思議さ】【遊びの面白さ】 ・〇〇に風が当たるようにすればいい。 ・風が吹いてくる方向を確かめるといい。 ・〇〇したら、遠くまで飛んだ。 ・〇〇が〇〇みたいに飛んだ。 ・〇〇したら、もっと楽しく遊べた。 ・川原は、強い風が吹く。 ・友達と〇〇するとおもしろい。 ・風があるから遊べる。		

7 学習過程と指導計画（全12時間）

次	時	「小単元名」 ◎ねらい○学習活動	評価	
			評価規準	◇評価の視点（ ）評価方法
一	2	「ふゆは やってきたかな？」 ◎身の周りや校庭の冬に関心をもち、探したり遊んだりすることができる。 ○校庭を探検し、諸感覚を使って「冬みつけ」をしたり見付けた物で遊んだりする。 ○見付けた冬を絵や文に書く。 ○見付けた冬を話し合う。	ア① ウ①	◇身の周りの自然に関心をもち、冬を探そうとしている。（行動観察） ◇校庭の自然の様子が変わってきていることに気付いている。（カード・発言） ◇冬の自然とかかわって遊べることに気付いている。（カード・発言） ◇自然の様子が夏や秋とは違うことに気付いている。（発言）

二	2	「きたかぜこぞうに あえるかな！」 ◎風との遊びに関心をもち、工夫して風と遊ぶことができる。 ○自分の考えた方法で、北風小僧を見つけて遊ぶ。 ○見つけた北風小僧について気付いたことを絵や文に書く。 ○カードに書いたことを話し合う。 ○次にしたいこと、準備する物を考える。		ここでは、8時間の中で、ア②、イ①、ウ②を左の学習活動に即して評価する。
	2	「きたかぜこぞうと あそんでみよう！」 ◎風との遊び方や遊びに使う物を工夫しながら遊ぶことができる。 ○自分のやりたい遊びで、北風小僧と遊ぶ。 ○北風小僧と遊んで楽しかったことや困っていることを絵や文に書く。 ○カードに書いたことを話し合う。 ○次にしたいこと、準備する物を考える。	ア②	◇自分の考えた方法で風と遊びようとしている。(カード・行動観察) ◇思いや願いをもって、風との遊びに使う物を作ろうとしている。(行動観察) ◇遊びのルールなどを考えたりしようとしている。(行動観察) ◇友だちとかかわりながら、みんなで楽しく遊びようとしている。(行動観察)
	2	「きたかぜこぞうと あそぼう！」 ◎風との楽しい遊び方を考えたり、風との遊びに使う物を工夫して作ったりしながら遊ぶことができる。 ○北風小僧と遊びながら遊び方を考えたり、遊びに使う物を改良したりする。 ○北風小僧と遊んで楽しかったことや困っていることを絵や文に書く。 ○カードに書いたことを話し合う。 ○次にしたいこと、準備する物を考える。	イ①	◇身の周りの物を使って風と遊んでいる。(行動観察) ◇風との遊び方を工夫して遊んでいる。(行動観察) ◇風との遊び方を考えて、遊びに使う物を工夫して作っている。(行動観察・作品) ◇遊びに使うものを改良したり、遊びを改善したりして、遊びを創り出している。(行動観察・作品)
	2	「きたかぜこぞうと もっと あそぼう！」 ◎風との遊びを改善したり、遊びに使うものを改良したりして、楽しい遊びを創り出し、楽しく遊ぶことができる。 ○前時の気付きを基に話し合う。 ○北風小僧と遊びながら、もっと楽しく遊べるように改良したり、遊び方を工夫したりする。 ○北風小僧と遊んで楽しかったことや頑張ったことを絵や文に書く。 ○カードに書いたことを交流する。	ウ②	◇風と遊べることに気付いている。(カード・発言) ◇次の活動のアイデアやめあてをもっている。(カード・会話) ◇風の方向や強さと遊びとの関係に気付いている。(カード・行動観察・発言) ◇風との遊びに適した場所に気付いている。(カード・行動観察) ◇風を上手に利用するとより楽しく遊べることに気付いている。(カード・行動観察・発言) ◇自分たちで遊びを創り出す面白さに気付いている。(カード・行動観察) ◇友達と遊ぶと楽しいことに気付いている。(カード・行動観察)
三	2	「おうちの 人に しらせよう！」 ◎これまでの活動を振り返り、楽しかったこと、発見したこと、頑張ったことなどを「おうちの人への手紙」として表現することができる。 ○これまでのカードを見直し、友達と話しながら、北風小僧や友達と遊んだことを思い出す。 ○北風小僧や友達と遊んで楽しかったこと、発見したこと、頑張ったことを家族に知らせる。	イ② ウ③	◇カードを見直し、内容を選んで手紙を書いている。(行動観察・会話) ◇友達との会話から内容を決め、手紙を書いている。(行動観察・会話) ◇振り返りを通して、友達のよさや自分のよさ、頑張りなどに気付いている。(手紙・絵)

8 本時の展開（2時間）

(1) 本時の目標

気付きを基に話し合うことを通して、遊びを改善したり、遊びに使うものを改良したりして、より楽しく遊ぶことができる。また、遊びを通して、遊びを創り出す面白さ、風の不思議さ、友だちと遊ぶ楽しさに気付くことができる。

(2) 学習の展開

学 習 活 動	予想される児童の反応(○)と指導者の支援(☆)	評価規準	評価方法
1. 学習のめあてを確認する。	きたかぜこぞうと もっと あそぼう！		
2. 活動に生かせるよう、前時の友達の気付きを基に話し合う。	☆ フリスビーをもっと遠くへ飛ばしたい児童の願いと、風をずっと揚がるようにしたい児童の願いを基に、風とおもちゃとを関連付けて考えられるようにする。 ○ 風の吹く向きを確かめればいいよ。 ○ 上に向かって投げたらいいよ。 ○ 風がないときは、走ったらいいよ。		
3. 話し合ったことを基に、北風小僧と遊びながら、もっと楽しく遊べるように改良したり、遊び方を工夫したりする。	☆ 自分は北風小僧とどうやって遊ぶかを確認する。 ○ 早く遊びたいな～。 ○ ○○してみるぞ！ ○ 風がこっちから吹くから、○○するといいかな。 ○ 風を受け止めるものがあれば、動くかな。 ☆ 活動が滞っている児童には、個に応じた言葉かけを行う。	(イ①) 話し合いを生かして、遊びを改善したり、遊びに使うものを改良したりしながら楽しく遊んでいる。	行動観察 作品（遊びに使う物）
4. 北風小僧と遊んで楽しかったことや頑張ったことを絵や文に書く。	☆ どの児童も気付きや楽しかったことなどが書けるように言葉かけを行う。		
5. カードに書いたことを交流する。	☆ 楽しく遊べたか、どんなところが楽しかったのかについて尋ね、今後の生活にもつながるようにする。 ○ ○○くんの教えてくれたコツを使って遊んだら、友達に勝ってうれしかったよ。 ○ 風の吹く向きを考えたら、風車を回したり、止めたりできたよ。 ○ ○○さんの方法で休憩時間にやってみたいな。	(ウ②) 遊びを創り出す面白さ、風の不思議さ、友だちと遊ぶ楽しさに気付いている。	カード 発言
北風小僧と遊んで、みんなは、たくさんの発見をしましたね。すごいなあ。まだまだ、北風小僧と遊ぶと、もっといろいろなことが発見できそうだね。			